

18) 陶磁器製雛人形制作に関する研究

陶磁器部デザイン担当 藤 靖之 川久保 正行

陶磁器製雛人形の実用化試験を目的に、ノベルティ研究会（しん窯、ヤマトク、畑萬陶苑、辻与製陶所、アートヒルズ）と共同研究を結び商品化に向けた製品開発を行った。

当センターでは大型、小型雛人形七段飾りをノベルティ研究会と共同で開発を行ってきた。これらは、見せるための人形を目的に製作し、有田雛のやきものまつりに展示し、有田町に多くの集客を得た。また日本各地でお披露目を行い、人形有田を広く消費者に認知させた。

ただ、今後は人形を小型化し商品化を目指すことが必要であった。このような中、有田地区に当センターのみにしか、人形製作を行える人材は存在しないため、当センターで製造プロセスを考慮した人形の造詣研究が必要となり、陶磁器製雛人形の実用化試験を目的に、ノベルティ研究会（しん窯、ヤマトク、畑萬陶苑、辻与製陶所、アートヒルズ）と共同研究を結び商品化に向けた製品開発を行った。

当センターでは、雛人形造形及び製造プロセス技術の研究を行い、ノベルティ研究会では、製品化試験、雛人形の文様の研究及び商品化企画がなされた。人形製作にあたり、大小2種類の大きさのものを製作した（図1）。（大 高さ約35cm、小 高さ約25cm）アイテムとしては、雄雛、雌雛、三方、ぼんぼり、犬笛である。

これらのアイテムを研究会会員に配布し、会員のほうで文様の研究がなされた。これらは、求評活動を目的に、ナゴヤドーム（図2）、東京ドーム（図3）の展示会に出展された。展示会では問い合わせも多く、今後商品化に向けての足がかりになった。



図1 大小2種の人形



図2 名古屋ドーム展示風景



図3 東京ドーム展示風景